

苫小牧広域森林組合の平成30年度通常総代会が、本町で盛会に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、胆振東部の各市町から当町へ多くの総代にお越しいただき、心からご歓迎申し上げます。

平成29年は苫小牧広域森林組合合併10周年という節目の年でありました。改めて心よりお祝い申し上げます。また、ご臨席の皆様におかれましては、地域の森林資源の適正な管理や、木材の安定供給、加えて地域産業の振興のためにそれぞれの地域においてご活躍いただいておりますことに、心から敬意を表する次第であります。

平成29年度の事業成績につきましては、組合長のご挨拶にもありましたので重複は避けませんが、北海道全体の木材の需要としましては一年を通じて堅調であった一方で、原木の供給不足が断続的に発生しており、組合経営も大変難しい状況であったと思います。そのような状況にも関わらず、森林整備事業においては昨年度を上回る5億1,000万円の事業量を確保され、事業全体の経常利益としても、昨年度同様6,000万円を超える成績を収められたことは、ひとえに組合長を中心とした執行役員並びに職員の皆様のご努力の賜物であり、重ねて敬意を表する次第です。

さて、林業・林産業を取り巻く最近の話題の一つとして、日欧EPAの進展が挙げられますが、大枠合意の内容として、製材品、集成材の関税が7年の段階的削減の後に撤廃されることが決まりました。特に影響を受けるのはトドマツ材と見込まれますが、長期的にはその他の製材品等の価格の下落も懸念されます。そのため、より一層の作業の効率化、製品の高付加価値化や資源の安定的確保に向けた取り組みが、重要であると認識しています。

一方で、林業を基幹産業とする市町村の悲願でありました森林環境譲与税の創設決定は朗報でありました。地域の森林づくりの安定的な財源として期待していますが、適正な森林管理に向けて、より効果のある取り組みが求められます。苫小牧広域森林組合の皆様には、特段のご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、貴組合におかれましては、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおける国産材利用の推進に呼応して、有明アリーナ建築用資材のご準備をされていると伺っております。加えて、白老町に整備予定の民族共生象徴空間・アイヌ民族博物館の建設に関しても、積極的にご提案されていると伺っており、これまで以上に公共施設での地域材の利用促進に弾みがつくことを期待しています。

北海道においては、「北海道立林業大学校（仮称）」の設立計画が注目されています。北海道だけでなく日本全体で常態化する林業の担い手不足への対策として、北海道が1学年40人程度、2学年生の林業大学校を設立し、林業の即戦力となる人材の育成を目指すも

のでございます。林業の担い手育成機関として大きな期待を寄せておりますが、せっかくの機会でありますので、道内有数の森林資源を誇る厚真町・むかわ町の両町と貴組合を中心に誘致活動を始めたところでございます。担い手の確保については、今年度から、小坂組合長が会長を務める「胆振東部地区林業担い手確保推進協議会」において、課題解決に向けて取り組みを始めていると伺っておりますが、これを機会に今後は、喫緊の課題として全道的な取り組みへと拡大していくことを期待しています。

最後に、本町における取組をご紹介します。本町では、平成28年に策定した「厚真町森林資源利活用戦略」において、川上から川下までの課題と方向性を整理し、現在、複合的に取り組みを進めているところでございます。取り組みの一つである担い手の確保につきましては、平成28年、29年の2年間で4名の新たな林業・林産業の担い手を創出し、平成30年度にも1名の新たな新規就業者を確保できる見込みとなっております。併せて、地元NPO等と連携した森林整備に加え、林業の6次化についての検討も進めているところでございます。今後も、森林資源を活用した取り組みを総合的に進めていくつもりではありますが、具体的な取り組みを進めるにあたり、貴組合との連携が必要不可欠でございますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

まだまだ、寒い日が続いておりますが、4月からは地拵えや植栽作業が始まります。収穫まで40～60年を要する林業も一步一步、日々の積み重ねが大切です。くれぐれもご自愛いただき、林業並びに農山村の持続的発展に更なるお力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げます。結びに、苫小牧広域森林組合のご発展と本日ご参会の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げ、挨拶いたします。

平成30年2月27日

厚真町長 宮坂尚市朗